

# 産業・教育発展目指し

## 第6号 マッチングラボ設立

有明高専



新しいプレートを取り付ける八木校長と栗林副所長

大牟田市東萩尾町の有明工業高等専門学校(八木雅夫校長)の産学連携の取り組み「マッチングラボ」第6号として、「三井三池製作所オープンイノベーションラボ」が設立された。4月同高専でラボの看板取り付けが行われ、研究リーダーを務める創造工学科の白川知秀助教や、八木校長、同社の栗林元之九州事業副所長らが出席。産業・教育のさらなる発展と活性化推進に向けた協力を誓った。

マッチングラボは同高専内に専用の研究室を設けて企業名、ラボ名を学内に掲示し、2年間の継続した研究を行う取り組み。研究者、学生だけでなく企業側からも客員として研究室に参加し、学生にとっては実際の製品に反映される研究に関わることで、企業の視点を学ぶ場にもなっている。

今回のラボは「組織・業務・商品の変革を目的としたデジタルトランスフォーメーション応用・教育に関する研究」がテーマ。同社が手掛ける掘削機械「ロードヘッダ」などの工業機械製造の基盤技術に同校の先端技術や学生の新しいアイデアを取り込むことで、デジタル化による自動制御や安

全対策などの推進を目指す。近年需要が高まるデジタル技術の素養を持った技術者の育成も大きな目標。同高専の教育を参考に社内教育にも反映し、デジタル技術に長けた社員の育成にもつなげたい考え。

式では八木校長が「高専教育におけるラボの役割は非常に大きい。地域企業の

皆さんに協力いただき、とてもありがたい」あいさつ。八木校長と栗林副所長が看板を取り付けた後は、白川助教が研究目標を出席者に説明。「違う強みを持つ高専と企業が協力し合い、学生の柔軟な発想でイノベーションを起こしたい」と意欲を語っていた。

(益田 明徳)